

コスプレ体験における参加創造型意味生成のプロセス
ー レイヤーという当事者による語り合いからの考察 ー

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域
奥村 知里

本研究では、コスプレを行う者（レイヤー）とキャラクターとの関係からコスプレ体験の意味生成プロセスを分析し、それを通して自己意識の在り方を探求することを目的とする。

レイヤー8名の協力のもと、レイヤーでもある筆者と研究協力者であるレイヤーとの一対一の語り合い法によるインタビューを行った。

インタビュー内容のカテゴリー分析を行った結果、レイヤーは、コスプレが行われる空間におしあげられ、作品世界をうつすことを通して日常生活とは異なるアクチュアリティを体験していることが示された。この空間は、内的現実と外的現実の中間領域に位置しており、日常生活から離脱したふるまいが可能となるカーニバル的世界であると考えられる。

また、コスプレを通して、日常生活における私・レイヤーとしての私・キャラクターとしての私という複数の自己が多層的に生成されることが示された。これらの多層的でアクチュアリティのある自己の対話は、『目的としての遊び』を中核に、『つながり構築の手段』、『日常生活の維持』、『自己の尊重と多様化』、『自己理解』という体験の多層的な意味生成を可能にするとともに、レイヤー自身が志向する可能な自己という未来の可能性を含んだ自己の生成とその理解につながっていくことが示唆された。

本研究から、自ら参加し創造するコスプレという体験の意味生成は、自己生成及びその理解と密接に関連したプロセスであることが示された。